

- 1 だいちくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは二きようめに書き、文しうは三きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくごとくにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

山登りで学んだこと

宮浦小 四年 寺田 あつき

ぼくは、夏休みにお父さんが

山登りをしよう。

と言ったので、はとこといっしょにチャレン

ジすることになりました。

白谷雲水きょうう入口やく五、六キロの太こ

岩おうふくコースです。

最初は、きれいにせいびされた道でしたが

さつきつり橋をこえると、急な山道になりました

した。ぼくは、足元を気にしながら進んでい

きました。一番きつかったのは、つじとうけ

から太こ岩までです。お父さんが

足元がすべるから気をつけてね。

と声をかけてくれたり、はとこのお父さんが

手をかしてくれました。うれしい気持ちにな

り最後までがんばろうと思ひました。

きつい道をのりこえると、ちよう上が見え

ました。ぼくは、

やったあ。

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



1 だいちくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらく(こと)にぎようをかえましよう。
3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

と声(こゑ)がでました。

ち(ち)ょう(じょう)う(う)上(か)ら(ら)は(は)、ぼ(ぼ)く(く)の(の)知(ち)っ(つ)て(て)い(い)る(る)太(た)ち(ち)ゅ(ゅ)

う(う)だ(だ)け(け)が(が)見(み)え(え)ま(ま)し(し)た(た)。す(す)る(る)と(と)、お(お)父(ちち)さ(さん)が(が)

っ(っ)あ(あ)の(の)山(やま)が(が)な(な)が(が)田(た)だ(だ)け(け)で(で)、そ(そ)の(の)横(よこ)が(が)宮(みや)の(の)う(う)ら(ら)だ(だ)け(け)だ(だ)よ(よ)。

と(と)教(きょう)え(え)て(て)く(く)れ(れ)ま(ま)し(し)た(た)。ぼ(ぼ)く(く)は(は)、

っ(っ)あ(あ)れ(れ)が(が)、な(な)が(が)田(た)だ(だ)け(け)と(と)宮(みや)の(の)う(う)ら(ら)だ(だ)け(け)な(な)ん(ん)だ(だ)

ね(ね)。教(きょう)え(え)て(て)く(く)れ(れ)て(て)あ(あ)り(り)が(が)し(し)ょう(じょう)。

と(と)言(い)っ(つ)て(て)き(き)れ(れ)い(い)な(な)山(やま)や(や)ま(ま)を(を)見(み)ま(ま)し(し)た(た)。

ち(ち)ょ(ょ)う(う)じ(じ)ょ(ょ)う(う)で(で)休(やす)め(め)い(い)し(し)た(た)後(のち)は(は)、下(くだ)山(さん)で(で)す(す)。

っ(っ)下(くだ)山(さん)の(の)方(かた)が(が)あ(あ)ぶ(ぶ)な(な)く(く)て(て)、足(あし)が(が)っ(っ)か(か)れ(れ)る(る)か(か)ら(ら)

注(ちゅう)意(い)し(し)て(て)ね(ね)。

と(と)み(み)ん(ん)な(な)に(に)声(こゑ)を(を)か(か)け(け)ま(ま)し(し)た(た)。

下(くだ)山(さん)し(し)て(て)い(い)る(る)と(と)登(のぼ)っ(つ)て(て)く(く)る(る)人(ひと)が(が)あ(あ)い(い)さ(さ)つ(つ)を(を)

し(し)て(て)く(く)れ(れ)た(た)の(の)で(で)、ぼ(ぼ)く(く)も(も)、

っ(っ)こ(こ)ん(ん)に(に)ち(ち)は(は)。

と(と)元(げん)気(き)よ(よ)く(く)あ(あ)い(い)さ(さ)つ(つ)を(を)返(かへ)し(し)ま(ま)し(し)た(た)。あ(あ)い(い)さ(さ)つ(つ)

を(を)し(し)て(て)も(も)ら(ら)え(え)て(て)う(う)れ(れ)し(し)か(か)っ(つ)た(た)の(の)で(で)、次(つぎ)に(に)登(のぼ)っ(つ)

て(て)き(き)た(た)人(ひと)に(に)は(は)、自(じ)分(ぶん)か(か)ら(ら)あ(あ)い(い)さ(さ)つ(つ)を(を)し(し)ま(ま)し(し)た(た)。

歩(あ)い(い)て(て)い(い)る(る)と(と)、こ(こ)け(け)む(む)す(す)の(の)林(はやし)や(や)、い(い)ろ(ろ)い(い)ろ(ろ)

4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいちくは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しよは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字さげて書きはじめ、だんらくのことにぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

なすぎを見ることかできませんでした。とれも初め
て見るものばかりですごいなと思ひました。
この山登りをとおして、きびしいことを体
感したり、ちようじようについた時のたっせ
い感をけい験すること、自分自身の成長に
つながったと思ひます。
今度は、じよう文すぎにチャレンジしてみ
たいです。そのために、走ったりしながら体
カづくりをしていきたいと思ひます。

- 4 、と。は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

